

ノーベル化学賞の鈴木先生のコメントは、何とも爽快！

日本のどちらを向いても閉塞感が漂い、しかも暗いニュースが連日報道される中で、この度のノーベル化学賞の日本人2人のダブル受賞は久々の明るいニュースなだけに、日本中が受賞フィーバーしているのも頷ける。

理系には全く、そう全く疎い自分なのでその研究詳細は理解は全くできないが、受賞者の一人である鈴木章先生のインタビューへの次のようなコメントを聞いて、何とも爽快この上なし！

先生の研究成果は医療品や農薬、電子材料なそ様々な分野で応用されている。

鈴木カップリング反応に関する論文・特許は6千本を越える」そうだが、鈴木先生自身は特許を取得していないとか。

先生はその理由（わけ）を「大学で国のお金で研究していたのだから。特許を取らずにオープンにしたお陰で、これだけ広く使ってもらえるようになったのだと思うね。社会や人のお役に立ててよかった。」と語っていた。

特許を多く取得して金銭に絡む理系の研究者の多い昨今、例えば、会社の研究室での自分の研究成果で会社は大儲けしたので、その研究者が会社相手に収益の分配の訴訟を起こしたという報道に数年前に接したことがある。

また、文系でも、著書出版で文献引用を明記していても、引用承諾の直接の相談がなかったと、著者と出版元にイチャモンをつけてきた文系学者の話も耳にしたことがある。

文系では論文趣旨を実験・検証できないだけに、自分の観点、考えが紹介されて社会に広まるのであれば、喜び感謝こそすれ、イチャモンをつけるのはどうかと思った。

理系、文系を問わずこうした研究者、学者の話を知ると、また、何でもかんでもお金の換算しその金額がその人の評価の指標になってるようなどこか変な今のご時世だけに、先生のような人もまだいることに驚き！

いや、こんなご時世だけに、なおのこと何とも云えない先生のコメントの爽快さ！

科学者、研究者の責務とは何か、使命とは何か、どうあるべきかを、先生のコメントは見事に言い当てていると思いませんか。

科学者、研究者でない我々凡人も、先生のコメントから「社会に生きる人としてのあり方」を学べるような気がしませんか。